

国内の書籍市場について

1.書籍市場とは

1.1 出版流通の仕組み

出版流通には大きく分けて3者が存在する。まずは『出版社』。書籍・雑誌を出版する、いわばメーカーである。日本には大小含め約4300社以上の出版社があるといわれている。有名な出版社として、講談社、小学館、集英社などがある。そして『取次業者』。出版社が作った書籍を書店へ供給する会社で、最後の『書店』は、取次業者から仕入れた書籍を消費者へ販売するお店である。対面型の店舗だけでなく、最近ではオンライン書店もかなり増えている。以上の3者から消費者へと、『出版社』『取次業者』『書店』『消費者』というのが流通の流れとなる。

1.2 国内書籍市場規模の推移

平成24年の国内書籍市場の調査によると、市場全体の売り上げは、1兆528億円となり、前年比の5.4%減となっている。一般書籍のジャンル別では、「文学・ノンフィクション」や「趣味・生活・実用」など8つの分野全てで売り上げが落ち込んだ。需要の根強い実用書で、一昨年から流行が続くダイエット本以外に新たな売れ筋が出なかったことや、文芸書でもベストセラーが少なかったことが影響した。

一般書籍以外では、コミック（漫画の単行本）は同1.5%減の2675億円で、文庫は同2.1%減の1285億円だった。出版社別では集英社が昨年に続き、売り上げ部数1億7821万部、14.5%のシェア（市場占有率）でトップ、講談社の10.8%、小学館の7.9%と続いた。

図1-1 国内書籍市場規模の推移

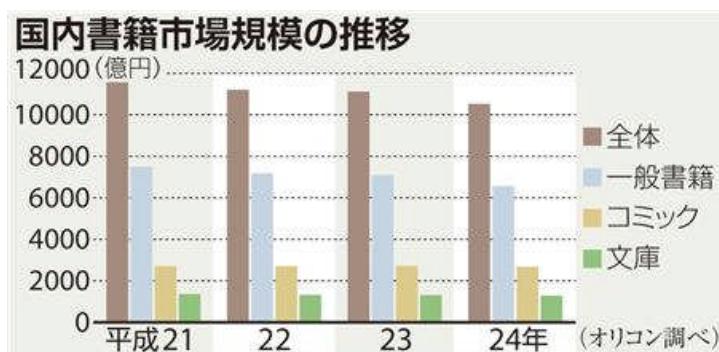


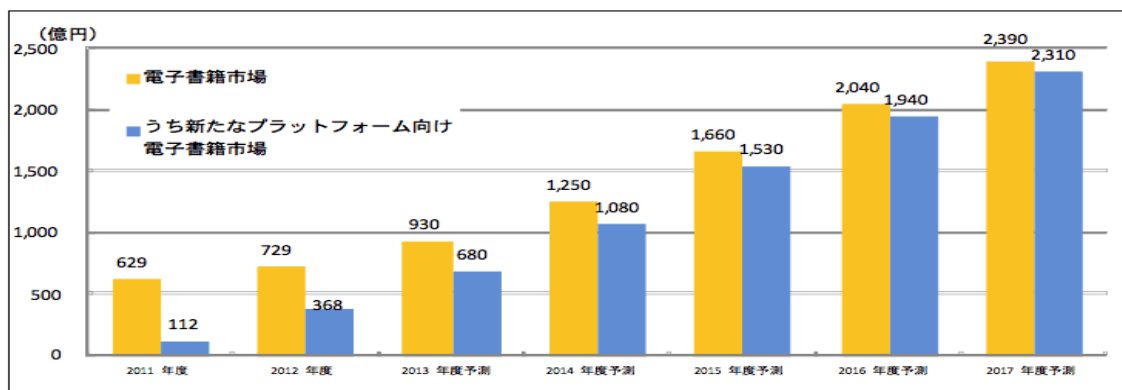
表1-1 ネット書店別売上高

| 順位 | ネット書店名 | 2010年 | 2011年 | 増減率 | 主要商材 |
|----|-----------|---------|---------|--------|----------------|
| 1 | アマゾン・ジャパン | 156,000 | 192,000 | 23.1 % | 書籍・CD・DVD |
| 2 | 楽天ブックス | 32,840 | 37,000 | 12.7 % | 書籍・CD・DVD |
| 3 | ツタヤオンライン | 16,600 | 19,000 | 14.4 % | 書籍・CD・DVD |
| 4 | セブンネット | 19,500 | 18,240 | ▲6.5 % | 書籍 |
| 5 | 駿河屋 | 5,300 | 8,000 | 50.9 % | 中古本・ゲーム・CD・DVD |

1.3 電子書籍

電子書籍とは、コンピューターなどで読む文章を中心とした電子出版物のことを指す。コンテンツは無料と有料のものがある。インターネットからダウンロードし、閲覧することができる。最近では、最初からデジタルコンテンツとして制作されているものもある。印刷や流通のコストがかからず、本の収納に困らないといったメリットがある。電子書籍はスマホ、iPadなどのタブレット、パソコンやAmazonのKindleやSONYのReader、楽天のkoboといった電子書籍リーダーなどがある。

2012年の日本の電子書籍市場規模は729億円。スマートフォンやタブレットユーザーの増加やKindleやkoboの参入によって一般消費者への認知の拡大などによって市場が急成長している。



さらに今後、新たなプラットフォーム向けは増加し続け、2017年度には2310億円に達すると見ている。ケータイ向けは80億円で、電子書籍市場全体では2390億円と予測している。なお、新たなプラットフォームとは、スマートフォン/タブレット向けの電子書籍関連アプリ、スマートフォン/タブレットなどのビューアーアプリ経由で購入する電子書籍、Kindle および類似の電子書籍配信サービス、PC/スマートフォン/電子ブックリーダーなどマルチデバイスで閲覧が可能な電子書籍配信サービス、PSP やニンテンドーDS などゲーム機向け電子書籍配信サービスなどがある。